

第2学年B組 図画工作科学習指導案

授 業 者 三浦 茉莉

研究協力者 長瀬 達也、坂本 英駿

1 題材名 絵のぐをながして わたしたちの町

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

2年生最初の題材で、ぼかしやステンシル、スクラッチなどのクレヨンによる表現を経験した。多くの子どもが、こすった時の綺麗さや形が現れた時の感動を味わいながら、表現そのものにのめり込んでいた。初めに参考作品を示したことで、その模倣から始める子どもがいたが、表現していくうちに、形を重ねたり、色を混ぜたりと工夫していく姿や自分なりの世界を思い付いて描き進める姿が見られた。

液体粘土を用いた造形遊びを行った際は、混ぜる色や乾いた後に重ねる色の組合せ、手指を使った描き方などを試行錯誤する姿があった。そうして生まれた絵の具の跡や色の感じから、見立てたことを描き足していったところ、更に活動に没頭していく様子が見られた。このように、造形遊び的に表現を試す中で生まれる形や色から発想することが、初めから何かを描こうと決めて描き始める絵よりも、表現が広がっていくように感じられた。

自分の表したいことをわくわくした気持ちで表現できる子どもが多いものの、中には最初に描こうと思い付いたものを一通り描いてしまえば満足し、そこから更に思い付いたり、造形的なよさを求めて表現にこだわったりするには至らない子どももいる。そんな子どもたちにとって、自分の表現に愛着をもち、形や色にこだわって表現を発展させていくことにつながるテーマの題材があればよいと考えている。

(2) 題材について

画用紙を傾けたり、揺らしたりなどして絵の具を流し、網目状の模様をつくる。その模様から見立てた町の住人になり切り、遊びに来た人がすてきだと思える町になるように表現を加えていく題材である。

本題材を通して、三つのことを期待する。一つ目は、絵の具の流し方を試行錯誤する行為に没頭することを通して、造形的な気付きを得られることである。画用紙の傾け方や揺らし方、水や絵の具の量、色の組合せによって模様の表れ方が変化することに、感覚的に気付いていくことだろう。こうした気付きを得ながら更に試していくことで、気付きを生かした意図的な表現へとつながっていくことを期待する。二つ目は、町を表そうと意図的に絵の具を流すものの、全くの思い通りとはならないために、偶発的な形や色が生まれ、子どもの発想が促されることである。表したいイメージをもった後も、絵の具の跡や色合いから想像が広がっていくことが期待される。三つ目は、町を表すというテーマ設定によって、楽しい世界を描くことが好きな本学級の子どもたちが、自分の表現に愛着をもてるようになることである。描き進める中で更に思い付いたり、造形的なよさを求めて表現にこだわったりする姿が期待できる題材である。

(3) 指導について

本題材で子どもたちは、自分が町の住人であるという世界に浸り、遊びに来た人にとって「すてきな町」になるようにイメージを広げていく。その過程で、「すてきな町」のイメージが表れるように、これまで経験した表現方法を活用したり、自分なりの表し方を思い付いたりして工夫して描くという資質・能力の向上を図りたい。そのために、次のことを指導する。

網目状の模様を見て、道路や迷路、そして町に「見立てる」という造形的な見方・考え方が子どもたちから出てくることが予想される。こうした発言を取り上げ、見立てによる表現によって町を想像していく本題材の趣旨を子どもと共有したい。

初めは、画用紙に絵の具を流すという行為そのものに浸り、偶発的に生み出される形や色の面白さを味わうことになる。子どもが絵の具の流し方を試す前に教師が何例か演示をし、見通しをもたせた上で複数回試す機会を保障する。そうして繰り返す中で、自分にとって納得がいく模様の付け方を習得できるようにしたい。また、1・2時間目の造形遊び後に、町

を表現するという本題材のテーマを確認してからは、絵の具を流す際に意図的な表現も加わることだろう。意図的な表現と偶発的な形や色とを行き来する中で造形的な気づきを得られるようにしたい。そのために、子どもの造形的な気づきに関するつぶやきや表現のよさを認める。

表し方を自分で選択する際の参考にしたり、自分なりに思い付いたりするきっかけにすることができるように、子どものよい表現について、造形的に価値付けながら紹介することを継続する。また、既習の表現方法をいつでも自分の表現に取り入れられるように、掲示物を通して振り返ることができる環境をつくっておく。本題材に至るまでに、クレヨンの表現を経験してきたが、題材をまたいで本題材でも繰り返し活用することで、自分が本当に使える表現となるように連続性のある表現体験を目指したい。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 「すてきな町」のイメージが表れるように、これまで経験した表現方法を活用したり、自分なりの表し方を思い付いたりして工夫して描くことができる。〈e 27〉
- (2) 表したい町のイメージをもち、自分の好きな形や色を基に、表し方を考えることができる。〈d 19、d 20〉
- (3) イメージした町を表現したり、友達と鑑賞したりする活動に楽しんで取り組もうとする。〈a1、f35〉

4 題材の構想（総時数 8 時間）

ゆびえのぐですてきなせかい
液体粘土で描いた絵の具の跡や色の感じから見立てたり、想像したりしたことを工夫して描く。

本題材

時間	学習活動 (・は予想される子どもの反応)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1 2	(1) 画用紙への絵の具の流し方を試す。 ・画用紙をくるくる揺らすと、丸い模様ができたよ。 ・絵の具の量を増やすと、色を濃くできるね。 ・模様が町みたいに見えるよ。	・絵の具の色が紙に綺麗に定着するように、水と水糊を 1 : 2 の割合で混ぜた液体を用意する。 ・流し方を試行錯誤する意欲をもつことができるように、子どもの活動前に教師が演示する。 ・表現の方向性をつかむことができるように、多様さが予想される「すてきな町」の捉えを子どもたちと共有しながらめあてを設定する。	・自分が気に入る模様になるように、絵の具の流し方や色の組合せを試行錯誤することを楽しんでいる。〈a1〉
3 4	(2) めあてを踏まえ、自分が気に入る模様になるように、新しい紙に絵の具を流す。		
	めあて 遊びに来た友達にすてきだと思ってもらえる町にしよう。		
5	(3) 複数枚の画用紙の中から町を描いていきたい一枚を選び、住人になり切って模様上を探検しながら表したい町のイメージをもつ。	・自分が町の住人であるという世界に浸り、町や表現への愛着を強くすることができるように、自分の姿を小さく模したものを作品上で動かしてみる時間を設ける。	・表したい町のイメージをもち、自分の好きな形や色を基に、表し方を考えている。 〈d19、d20〉
6 本 時 7	(4) イメージした「すてきな町」を描き表す。 ・カメの甲羅にも見えるから、カメの町にしたいな。 ・青や水色の模様が気に入ったから、爽やかな感じの町にしたいな。 ・町に遊びに来たお友達も描いてみよう。 ・色が混ざり過ぎたけれど、虹色みたいで綺麗な。虹が見える町にしてみよう。	・イメージに合わせて表し方を選択したり、自分の表現の参考にしたりすることができるように、既習の表現を掲示しておく。 ・自分の表現に自信をもち、更に工夫していく意欲をもつことができるように、造形的に価値付ける声掛けを行う。 ・表現が停滞している子どもには、一緒に模様から見立てたり、友達の様子を参考にできないか助言したりする。	・「すてきな町」のイメージが表れるように、これまで経験した表現方法を活用したり、自分なりの表し方を思い付いたりして工夫して描いている。 〈e27〉
8	(5) 友達と作品を見合い、造形的な面白さや楽しさなどを味わう。 ・優しい感じの町にしたいから、クレヨンで塗ってぼかしたよ。 ・〇〇さんの町はたくさん動物がいて楽しそう。行ってみたいな。	・鑑賞する楽しさを実感することができるように、友達の表現のよさや作品に込めた自分の思いを伝え合う時間を設定する。	・友達の作品から造形的な面白さや楽しさなどを感じ取っている。〈f35〉

◎本題材で育む主な資質・能力

「すてきな町」のイメージが表れるように、これまで経験した表現方法を活用したり、自分なりの表し方を思い付いたりして工夫して描く。〈e27〉



たくさんうつそう わたしの形

版の並べ方や重ね方、写す位置を試しながら、同じ形がたくさんある画面から思い付いたことを描く。

5 本時の実際（6／8）

(1) ねらい 「すてきな町」のイメージが表れるように、これまで経験した表現方法を活用したり、自分なりの表し方を思い付いたりして工夫して描く。〈e27〉

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
7分	① めあてを確認する。 遊びに来た友達にすてきだと思ってもらえる町にしよう。	・本時の見通しをもつことができるように、前時までに設定しためあてを確認し、子どもたちの「すてきな町」の捉えをいくつか共有する。 ・自分だけの見立てを越えて表現に広がり生まれるように、全体でいくつかの模様を見立ててイメージした町を語り合う時間を設定する。
30分	② 模様からイメージした「すてきな町」を描き表す。 〈予想される子どもの反応〉 【模様の形や色から発想する】 ・縦縞の模様が、滝に見えるな。ウォーターズライダーができる町にしよう。 ・カメの甲羅にも見えるから、カメの町にしたいな。カメの家族を描いてみよう。 ・青や水色の模様が気に入ったから、爽やかな感じの町にしたいな。青に合う色を選んで、クレヨンで重ね塗りしてみよう。 ・色が混ざり合って、虹の町みたいだな。色鉛筆でたくさん虹を描きたいな。 【見立てによる発想に悩んでいる】 ・模様を見ても思い付かないな。とりあえず何か描いて埋めないと…。 【見立てから、更に想像を広げている】 ・町にお友達が遊びに来たら楽しいな。 ・線路に電車を走らせてみよう。 【表現方法を工夫して描いている】 ・優しい感じの町にしたいから、クレヨンで塗ったところをぼかしてみたよ。 ・混ぜると綺麗に見えるようなクレヨンの色の組合せを選んでみたよ。 【ある程度描いて満足する】 ・もう、描きたいものは描いちゃったよ。次に何をしたらいいか思い付かないな。	○町のイメージに合わせて表し方を選択したり、自分の表現の参考にしたりすることができるように、既習の表現を掲示しておく。 ・一人で描く時よりも表現に幅をもつ可能性を高めることができるように、互いの作品が視界に入るグループ隊形にしておく。 ○自分の表現に自信をもち、更に工夫していく意欲をもつことができるように、造形的に価値付ける声掛けを行う。 ・表現が停滞している子どもには、模様から見立てたり、作品上で自分を小さく模したものを動かしながら想像したりすることを一緒に行う。また、参考になりそうな友達の表現や既習の表現を紹介する。 「すてきな町」のイメージが表れるように、これまで経験した表現方法を活用したり、自分なりの表し方を思い付いたりして工夫して描いている。 〈e27〉（活動の様子・作品）
3分 5分	③ 後片付けをする。 ④ 学習を振り返る。 <予想される子どもの反応> ・〇〇さんは模様からカメの町を想像したんだな。カメがかわいいから、見に行ってみたいな。 ・もっと虹の町の楽しい感じを出したいな。次は、住んでいる動物たちも描いてみよう。	・本時の学びを共有し、次時の活動につなげることができるように、気付いたことや次時に頑張りたいことを問い掛ける。



令和 8 年度 図画工作科実践・研究計画

部 員 ○三浦 茉子、大森 果歩

I 図画工作科における 自律した学習者の姿

- 1 形や色などに関する造形的な
気付きを獲得し、自信をもって表
現につなげていく姿
- 2 表したいことに対して、自分の
世界観をもち、想像を広げていく
姿
- 3 造形的な視点に基づき、意図を
もって表現を発展させていく姿

II 図画工作科における 授業デザインの取組

- A 造形的な気付きを自分の表現に生
かそうとすることができる、表現や
鑑賞活動の設定
- B 表現することに自信をもてる共感
的な言葉掛けや想像の広がりをも
つ対話
- C 題材ごとにねらいとする造形的価
値の明確化と、それに沿った表現や
鑑賞活動の価値付け

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	表現方法を試す過程で造形的な気 付きを獲得し、その後の表現を発展さ せた姿 (1、3)	多様な表現方法を試すことに没頭でき る場をつくり、その方法が生み出す形や 色の効果を実感できるようにしたこと (A)
	自分が想像したことや表現の仕方 に自信をもつことができた姿 (1、2)	子どもが表そうとしていることに対す る共感的な言葉掛けや対話、造形的な価 値付けを継続して行ったこと (B、C)
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	造形的な気付きを獲得しながら身 に付けた表現方法を活用したり、さら に表現を発展させたりするには至ら ない姿 (1、3)	出合った表現方法をまた活用したいと 思えるように、新たな表現方法との出合 いの場、その効果に手応えを感じられ るまで試行錯誤する場、題材をまたいで繰 り返し活用する場を設定するなど、連続 性のある表現体験となるようにする。 (A、B、C)

令和8年度「図画工作科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
図工科の学びに向かう力、人間性等	a1	楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	1.2AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	a2	進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	3.4AB(1)(2)		□	■	■	■	■
	a3	主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わう。	5.6AB(1)(2)				□	■	■
	a4	形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。	1.2AB(1)(2) 3.4AB(1)(2) 5.6AB(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	b5	身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付く。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b6	感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するのかについて考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	b7	身近な自然物や場所などを基に造形的な活動を思い付く。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b8	新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するのかについて考える。	3.4A(1)(2)			■	■	■	■
	b9	材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付く。	5.6A(1)(2)					■	■
	b10	構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するのかについて考える。	5.6A(1)(2)					■	■

図工科の各領域の付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【造形遊び】	c11	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c12	並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくる	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	c13	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c14	前学年までに扱った材料や用具についての経験を生かす。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c15	組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくる。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	c16	活動に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c17	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かす。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	c18	前学年までに習得した方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくる。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の付けたい力 「思考力・判断力・表現力等」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	d19	感じたこと、想像したことから、表現したいことを見付ける。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d20	好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかを考える。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	d21	感じたこと、想像したこと、見たことから、表現したいことを見付ける。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d22	表現したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかを考える。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	d23	感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表現したいことを見付ける。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	d24	形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかを考える。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 「知識及び技能」 A表現(1)(2) 【絵・工作・立体】	e25	身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れる。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e26	手や体全体の感覚などを働かせて表す。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e27	表したいことを工夫して描いたりつくったりする。	1.2A(1)(2)	■	■	■	■	■	■
	e28	材料や用具を適切に扱う。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e29	前学年までの材料や用具についての経験を生かして表す。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e30	手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	3.4A(1)(2)		□	■	■	■	■
	e31	表現方法に応じて材料や用具を活用する。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e32	前学年までに扱った材料や用具についての経験や技能を総合的に生かして表す。	5.6A(1)(2)				□	■	■
	e33	表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する。	5.6A(1)(2)				□	■	■

図工科の各領域の 付けたい力 B鑑賞	f34	自分たちの作品や身近な材料などを鑑賞する。(身の回りの作品など)	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f35	造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	1. 2B	■	■	■	■	■	■
	f36	自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などを鑑賞する。(身近にある作品など)	3. 4B		□	■	■	■	■
	f37	造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	3. 4B		□	■	■	■	■
	f38	自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などを鑑賞する。(親しみのある作品など)	5. 6B				□	■	■
	f39	造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりする。	5. 6B				□	■	■
	f40	鑑賞活動を通して、自分の見方や感じ方を広げる。	1.2B(1)(2) 3.4B(1)(2) 5.6B(1)(2)	■	■	■	■	■	■

図工科の〔共通事項〕 「知識」 「思考力・判断力・ 表現力等」 A表現 B鑑賞	g41	形や色の同じ、違う、似ている、似ていない、大小、長短、丸・三角・四角などの大まかなまとまり、触った感じなどを捉える。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g42	偶然見付けた形や色、見立てなどを基に、自分のイメージをもつ。	1.2AB	■	■	■	■	■	■
	g43	形の柔らかさ、色の暖かさ、それらの組み合わせによる感じ、重なり、前後、色の明るさ、質感などを捉える。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g44	形や色の感じ、自分の思いや経験などを基に、自分のイメージをもつ。	3.4AB		□	■	■	■	■
	g45	動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ、方向感、材質感、時間的な変化の動き、量感などを捉える。	5.6AB				□	■	■
	g46	形や色などの造形的な特徴を基に、具体的なイメージや、抽象的なイメージをもつ。	5.6AB				□	■	■

<図工科の学びを支える造形的な「見方・考え方」>

- a 対象や事象を形や色などの造形的視点で捉える。(形の大小, 色の濃淡, 動き, バランス, 色の鮮やかさ, 形や色の感じなど)
- b 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す。(表したいことをもつ, 自分と対象との関わりを深めるなど)

低学年	・並べる ・つなぐ ・積む ・重ねる ・かぶせる ・丸める ・破る ・巻く ・つるす ・たらす ・ちぎる ・丸める ・のばす ・同じ違う ・似ている似ていない ・大小 ・長短 ・丸, 三角, 四角の大まかなまとまりでとらえる ・見立てる
中学年	・変形 ・質感 ・色の組み合わせ ・向き ・しかけや動くしくみ ・切ってつなぐ ・線の太さ ・絵の具の水加減(色の濃さ) ・色の混ぜ方 ・色の明るさ, やわらかさ ・意味付ける
高学年	・奥行き ・強調 ・線の強さ ・バランス ・前後関係 ・形や色が互いに響き合う配置 ・動き ・時間的な変化 ・色の鮮やかさ ・色の変化